

ウィルブレイク

公私混同侍

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

5枚のカードだけで勝負を決する。

まだ世界に認知されていない未知のゲームがそこにはあった。

その名は『ウィルブレイク』

無限の戦術、無二のゲーム性、無条件の勝利……

勝利の為に己の全てを賭けろ!!

目次

5枚のカード	1
ゲームの進め方	6
スキルを使いこなせ！	11
↳前編↳	
スキルを使いこなせ！	16
↳後編↳	
ファースト・レグ・キル	20
絶対勝利の戦術	25
名誉なき勝利	29
『ヘイルマリア』の弱点	33
ウィルブレイカー	36

5枚のカード

く空き地く

是政(これまさ)「あーあ、今日は部活も休みだしさつきと帰るかー」

是政「なんだ？空き地から話し声がするぞ？」

是政(誰かいるみたいだ。こんな陽が暮れる時間まで遊んでるのか)

グリーン「うげえ……またオレの負け……」

かりん「グリーンって本当弱いよね——ていうかももうこんな時間！早く帰らなきゃ！」

グリーン「頼む！もう一回だけ勝負してくれっ！」

かりん「何度やつても同じだよ。それじゃあ約束だからね。明日からちゃんと来なきゃダメだからね？」

グリーン「そんなあ……」

是政(あのグリーンっていう男の子は『かりん』っていう女の子に弱味でも握られたのか？)

かりん「そんな顔したってグリーンが弱いのが悪いんじゃない」

グリーン「くつそお、オレにも力があればこんな辛い目に合わずにすんだのによお」

かりん「はあ、バツカみたい」

是政(凄く深刻な空気が漂ってるぞ。面倒なことになりそうだし関わらない方が良さそうだ)

グリーン「——あっ!？」

かりん「今度はなに？」

是政(何で俺を指差してるんだ……!?)

グリーン「強そうな人、みっけっ!!」

是政「は、はあああッ!?!」

かりん「ちよつといきなり知らない人に指差さないのっ！」

グリーン「なあなあ兄ちゃん、オレの代わりにかりんと勝負してくれよ！」

是政「い、いや俺はただの通りすがりだし……」

かりん「ごめんなさい。グリンの言うことなんて聞かなくても大丈夫なんで——ほらっ、行くよ」

グリン「待てよかりん。この人、ずっとオレたちのこと見てたんだぜ」

かりん「えっ!?! そうなの!?!」

是政「ま、まずい! これじゃ俺が不審者扱いされちゃう!」

グリン「オレの推理だと兄ちゃんは——」

是政「ゴクリ……」

かりん「お兄さん、汗すごいわ」

グリン「ゲームをしたかったんだ。なっ? そうだろ?」

是政「ゲーム?」

かりん「グリンさあ、今どきカードゲームなんてやるのは中学生ぐらいまでだよ。高校の制服着た人がやると思う?」

グリン「じゃあ、兄ちゃんはなんでずっとオレたちのこと見てたんだ?」

是政「そ、それは……(返す言葉が出てこないぞ……なんて答えたらしいんだ?)」

かりん「もしかしてお兄さんって危ない人? 最近不審者が増えたつてお母さんが言ってたし」

グリン「かりん! そんな言い方ねえだろ! 兄ちゃんが悪そうに見えるか? オレには見えねえっ!」

是政「これは乗った方がいいかもしれない」

かりん「で、どうなの?」

是政「そ、そうだなあ。二人が遊んでるゲームが楽しそうだなあと思ってたんだ」

グリン「やっぱりな! オレの目に狂いはなかったぜ!」

かりん「ほんとに?」

是政「で、でもゲームはやったことないから——」

グリン「じゃあオレが教えてやるよ」

かりん「もう帰るから明日から学校にきてよね」

グリーン「ちえつ、わかったよ」

是政「学校に行く約束を賭けてゲームをしてたのか？」

グリーン「そういうことさ」

是政「偉そうに言うことじゃないと思うが——」

グリーン「まあまあ、オレのことは気にすんなよ。じゃあルールを説明するからオレんちに来てくれよな」

是政「いきなり見ず知らずの人間を家に上がらせて大丈夫なのか？」

グリーン「大丈夫大丈夫。父ちゃんと母ちゃんは夜遅くまで働きに出てて帰ってこねえから」

是政「そ、そうか」

グリーン「それとオレはシャクジイ・グリーン。兄ちゃんは」

是政「俺は足立是政（あだちこれまさ）」

グリーン「よろしくう、是政兄ちゃん」

くシャクジイ・グリーの自宅く

グリーン「どこでもいいから座って待ってて」

是政「物が多過ぎて座るところがない。自分で作れってことか」

グリーン「ええつと……あれえとこだあ？」

是政「何探してるんだ？」

グリーン「ゲームに必要なやつ」

是政「そんなゴミしかない場所に眠ってるかよ……」

グリーン「あったあった。これこれ——」

是政「これってさつき言ってたカードなんだよな？」

グリーン「父ちゃんが使ってたやつなんだけど、最近忙しくて遊んでくれないんだ」

是政「グリーンが通ってる学校ならやってくれそうな友達がいるんじゃないのか？」

グリーン「カードゲームって言ったって、たった5枚のカードだけじゃ面白くないって言うんだ。それで周りから友達がいなくなっちゃったんだ……」

是政「そんなことがあったのか」

グリーン「かりんぐらしいしかゲームを理解してくれる友達がいなかったんだ。でもかりんはオレに気を使って学校に来させようとしてるだけなんだぜ？」

是政「かりんって子はいいい友達だと思うけどな」

グリーン「どこがだよ！あんな口の悪い女、オレより頭がいいからつてすぐ調子にのるんだぜ？ゲームが強いからつて言いたいことばつか言うんだぜ？ひでえだろ？」

是政「そうかもな」

グリーン「でも兄ちゃんやかりんがゲームに興味を持ってくれてちよっぴり嬉しかったんだ」

是政「なら教えてくれ。早くしないと両親が帰ってきちゃうぞ？」

グリーン「そうだった！それじゃあカードをシャッフルして！」

是政「カードに年季が入りすぎてシャッフルしにくい」

グリーン「雑に扱わないでくれよな。父ちゃんの大事なカードなんだから」

是政「カードをシャッフルしたら？」

グリーン「5枚カードを裏にして山札にする」

是政「トランプみたいなものか」

グリーン「まず上から1枚めくってみて」

是政「俺が引いたのは……なんだこれ？『シューティングスター』？」

グリーン「へっへっ！オレが引いたのは『レーザーフォース』だぜッ！」

是政「このカードのパワーは——『レーザーフォース』より弱い？」

グリーン「そんな雑魚はかんたんに倒せちゃうぜ」

是政「ふーん、俺の負けか」

グリーン「負けると持ち点を『1点』減らすんだ」

是政「持ち点が無くなると終わりってことだな」

グリーン「でもゲームはそう単純じゃないんだぜ？」

是政「まだあるのか？」

グリーン「カードには『スキル』があるんだ。例えばこの『レーザー

フォース』。スキルは山札からカードを『エリア』に捨てれば、相手の持ち点を減らすことができるんだぜ」

是政「『スキル』を使い分けなきや勝負にならないってことだな」

グリーン「ちなみにこのゲームには『ウィルブレイク』ってちゃんとした名前があるからちやんと覚えてくれよな」

是政「このカードのことか。カード名になるぐらいだから相当強力なんだろうな」

グリーン「えへへ」

是政「少しだけ興味が出てきた」

グリーン「ひと勝負してみる？」

是政「そうだな。そんな難しくなさそうだし（とは言ったものの長居はゴメンだ。適当にあしらってさっさと帰るとするか）」

ゲームの進め方

グリーン「ルールを説明するぜ。お互いの持ち点は『3点』。スキルは2回まで使える。でも同じスキルを2回使うことはできないぜ」

是政「『レーザーフォース』を2回使うことはできないってことだな」

グリーン「うん。それとカードの引き直しは『レグ』につき1回まで。本当は山札が2枚しかない時はできないんだけど、今回は特別に引き直しているよ」

是政「『レグ』ってターンみたいなやつ?」

グリーン「そうそう。このゲームでは最初のターンのことを『ファースト・レグ』って呼ぶんだぜ」

是政「最後のターンは『ファイナル・レグ』か」

グリーン「それと山札が先になくなった方が負け」

是政「同時になくなったらどうなるんだ?」

グリーン「5枚引いても勝負がつかない時は『オーバー・レグ』になる」

是政「『オーバー・レグ』の説明は……今はいいか」

グリーン「よし!やろうぜ!」

『ファースト・レグ』

是政「山札からカードをめくるっつと」

グリーン「オレは引き直しはしないけど兄ちゃんどうする?」

是政「俺もこのままでいい(引いたカードは『ギガクラッシュ』。絵柄、雰囲気、いかにも強力そうなカードだ)」

グリーン「よし。カードを一緒に出すよ。せーのっ——」

是政「どうだ?」

グリーン「兄ちゃんは『ギガクラッシュ』。オレは『シューティングスター』」

。パワーは『ギガクラッシュ』の方が強いからオレの持ち点が『2点』になっちゃった」

是政「よくわからないけど幸いいいぞ」

グリーン『ギガクラッシュ』のスキルは相手のカードを宣言して『エリア』に置かせることができるんだぜ」

是政（そうか！強力なカードを山札から捨てさせることができるんだな！）

グリーン『スキル』は2回までしか使えないから忘れないでくれよ」

是政「なら俺は『レーザーフォース』を宣言する」

グリーン「ちゃんと覚えてくれてたんだ。『レーザーフォース』はスキルが強力だから正解だぜ」

是政「これで俺の山札は4枚。グリーンは3枚だ」

グリーン「えっへっへ」

是政「なんだよ、その笑いは」

グリーン「5枚の『カード』には『エリアスキル』があるんだぜ」

是政「もしかして『エリア』に置かれると発動するのか？」

グリーン「そうさ！『レーザーフォース』は山札から直接『エリア』に置かれると、お互いの持ち点を『2点』にするんだ！しかも『エリアスキル』の使用回数に制限はなし！」

是政「そんなのありかよ。ちゃんと読んどけば良かった……」

グリーン「パワーで勝つてもスキルで状況が変わっちゃうなんてビツクリだろ？」

是政（このゲーム、結構単純だと思ってたけど——）

グリーン「頭を使うんだよ」

是政の山札 4枚

持ち点：2点

エリアに置かれたカード

『ギガクラッシュ』

スキル使用回数1回

グリンの山札 3枚

持ち点：2点

エリアに置かれたカード

『シューティングスター』

『レーザーフォース』

スキル使用回数0回

『セカンド・レグ』

是政「とりあえずカードを引くしかない」

グリーン「勝負はこれからこれから」

是政（俺が引いたのは『レーザーフォース』！）

グリーン「引き直ししなくてもいいの？」

是政「ああ、勝負だ」

グリーン「オレが引いたの『ギガクラッシュ』だけ。兄ちゃんが引いたのは『レーザーフォース』だ。持ち点が『1点』減っちゃったぜ」

是政「くっ、残りの持ち点は『1点』！だが、俺は『レーザーフォース』のスキルを使う！」

グリーン「ありや、オレの持ち点が『1点』になっちゃった」

是政「次で最後だな」

グリーン（兄ちゃん、『エリア』に置かれたカードを確認してないけどまあいいや）

是政の山札 2枚

持ち点：1点

エリアに置かれたカード

『ギガクラッシュ』

『レーザーフォース』

『ヘイルマリア』

スキル使用回数 2回

グリンの山札 2枚

持ち点：1点

エリアに置かれたカード

『シューティングスター』

『レーザーフォース』

『ギガクラッシュ』

スキル使用回数 0回

『ファイナル・レグ』

是政「俺が引いたのは：（『シユータイングスター』か。確かこのカードは『レーザーフォース』より弱い。ダメだ……）」

グリーン「オレは引き直さないぜ。兄ちゃんは？」

是政「引き直す」

グリーン「それじゃあそのカードを山札の一番下に入れて、上のカードを引くんだ」

是政「……!?!」

グリーン「兄ちゃんの勝ちだね」

是政「グリーン、手抜き過ぎ（そういうえば『エリアスキル』使うのを忘れてた）」

グリーン「だつてさ、兄ちゃんがちゃんとゲームを理解してくれて嬉しかったんだよ」

是政「だからあえて引き直しもしなくて、スキルも使わなかったんだな？」

グリーン「うん、ごめんなさい」

是政「まったく、やなヤツ」

グリーン「でも兄ちゃん運が強いよ」

是政「なんでだ？」

グリーン「だつて初めてやって『ギガクラッシュ』『レーザーフォース』『ウィルブレイク』を引き当てるなんて、簡単にできることじゃないつて父ちゃんが言ってたんだ」

是政「そうか？まあ、確かにパワーだけなら強いカードばかりだけだ」

グリーン「そのカード兄ちゃんにあげるからさ、明日またあの空き地に来てくれよ。たまにでもいいからさ」

是政「学校に行くって約束するならな」

グリーン「うっ……」
是政「やっぱりこのカード返すわ」
グリーン「行くよ！行く行く！」

スキルを使いこなせ！　　く前編く

く空き地く

かりん「学校に来てくれたと思ったら、また空き地に呼び出すなんてどういうつもり？」

グリーン「ちよつと相談にのってもらおうと思って……」

かりん「ゲームする相手を紹介してほしいって言うなら私帰るから」

グリーン「じゃあ、オレの代わりにゲームしてほしい人がいるって言ったら？」

かりん「そんな人いたらとつくにゲーム嫌いになってると思うけど」

グリーン「相変わらず強気だなあ……」

是政「おーい、また喧嘩してるのか？」

かりん「あつ！昨日のお兄さんっ！」

グリーン「つたくよ、来るのが遅いぜ」

是政「仕方ないだろ。高校生は義務教育を受けてるお子ちゃまとは違うんだよ」

かりん「お兄さんね、グリーンに変なこと吹き込んだの！」

是政「変なこと？」

グリーン「オレは何も言っただろ！それより兄ちゃんも勝負してくれよ。かりんにとって手強い相手になると思うんだ」

かりん「お兄さんもゲームやるの？」

是政「いやあ、昨日教えてもらったばかりだから——」

グリーン「オレが教えられることは全部教えたし、兄ちゃんならかりんを倒せる！」

かりん「そこまで言うんだったら勝負しよ」

是政「いやいや無理だつて！勝てるワケないつて！」

グリーン「やってみなきやわかんねえだろ！」

かりん「私が勝つたらもうグリーンとは関わらないで」

是政（なんじゃそりゃ？）

グリーン「言われっぱなしなんて男じゃないぜ！兄ちゃん、バシッと決めてやってくれよ！」

是政（なぜ二人は勝手に盛り上ってるんだ……？）

『ファースト・レグ』

是政（気がのらないな……）

かりん「早くしてよ。暗くなっちゃうよ」

是政「あ、ああ。（最初のカードは……うっ、『ヘイルマリア』かよ……）」

かりん「ルールは知ってるんでしょ？持ち点は『3点』。引き直しは『レグ』につき一回まで。山札が2枚しかない時はダメ。スキルは2回まででいいよね？」

グリーン「十分十分」

是政「（こんな弱いカードじゃ勝負にならない）俺は引き直す」

かりん「ふん」

是政「くっ……（今度はパワーが2番目に低い『シューティング』かよっ！）」

グリーン「兄ちゃん、昨日のは一体なんだったんだよっ！」

是政（俺が聞きたいわ……）

かりん「私は『ウィルブレイク』」

是政「!？」

グリーン「いきなり一番パワーが強いカードかよ……!？」

是政「も、持ち点が2点に……」

是政の山札：4枚

持ち点：2点

エリアに置かれたカード

『シューティングスター』

スキル使用回数0回

かりんの山札：4枚

持ち点：3点

エリアに置かれたカード

『ウィルブレイク』

スキル使用回数0回

『セカンド・レグ』

かりん「やる気なくなっちゃった？（最初に『シューティングスター』出す人、初めて見たかも）」

グリーン「なくなるワケねえだろう！是政兄ちゃんの真の力はこれからだぞっ！」

是政（勝てる気がしない。とりあえず自分のペースでやっていくしかない——）

かりん「今度はいいカード引けた？」

是政（今引いたカードはどう使えばいい？それに関りんはなぜ俺の『エリア』を見てるんだ？）

グリーン（兄ちゃん、カードと睨めっこしてたってしようがないよ！ガンガン攻めてかなきゃ！）

かりん「ズルい！二人でコソコソしないでよ！」

是政「思いきって勝負するしかない！コイツで行くっ!!」

かりん「私は『レーザーフォース』……あつ、お兄さんは『ギガクラッシュ』だ」

グリーン「やったぜ！兄ちゃんがパワーで勝った」

是政「そして俺は『ギガクラッシュ』のスキル——」

かりん「まっつて。スキルを使用するには優先順位があるんだよ。パワーの低い方から先に使えるの」

是政「知らなかった。また一つ勉強になったよ」

かりん「わ、私は『レーザーフォース』のスキルを使って山札から1枚『エリア』に置くから！（急に素直にならないでよ。ちよつとドキツとしちゃった）」

グリーン「マズイよ、兄ちゃん」

是政「何がだ？『レーザーフォース』のスキルは相手の持ち点を『1点』減らすんだろ？俺の持ち点はまだ『1点』残る」

グリーン「それだけじゃないんだよ。カードには山札から『エリア』に置かれると持ち点を減らせたりする『エリアスキル』って言うのがあ

るんだ」

是政「あつ……（そういえば昨日そんなこと言ってたような）」

かりん「覚悟はいい？恨みっこはなしだから」

グリーン「は、早く引けよ！」

是政（手元が暗くて見えづらくなってきた）

かりん「私が引いたのは……『ヘイルマリア』」

グリーン「よ、よかったあ……」

是政「なあ、『ヘイルマリア』の『エリアスキル』って何だ？」

グリーン「『ヘイルマリア』は持ち点を『1点』増やすんだ」

是政「俺の？」

かりん「そんなワケじゃん！私の持ち点が増えるの！お兄さんは

『スキル』使わないの？」

是政「そうだった。俺は『ギガクラッシュ』の『スキル』を使う」

グリーン「スキルはカード名を1枚宣言して相手の山札にそのカードあつたら『エリア』に置かせることができるんだ。もしなければ自分の山札から『エリア』に置く。お互い持つてなければ自分は『エリア』から好きなカード1枚、山札に加えることができるんだぜ」

かりん「ちなみに『ヘイルマリア』は『エリアスキル』が発動すると山札に戻るの。そしてシャッフルする」

是政（『ヘイルマリア』は再利用できるのか。さて何のカードを置かせるべきか？かりんの『エリア』には『ウィルブレイク』と『レーザーフォース』がある）

是政（ということは『ギガクラッシュ』を置かせればパワーで高いカードが存在しなくなる。いや、ダメだ。『ギガクラッシュ』の『エリアスキル』で俺の持ち点を『1点』減らされてしまう）

是政（『ヘイルマリア』を選べば持ち点を増やされた上に山札に戻ってしまう。ならあのカードしかないか）

グリーン「兄ちゃん、諦めちまったのか？」

是政「いや、俺が選ぶカードは『シューティングスター』だ」

かりん「……!？」

グリーン「『シューティングスター』の『エリアスキル』は持ち点を『2

点』増やすだ。どうすんだよお〜点差が4点も開いちまったよお〜」
かりん「……………」

是政（かりんの様子が変わった？やっぱり『シューティングスター』
には何か意味があるのか？）

スキルを使いこなせ！ 後編

く空き地く

是政の山札：3枚

持ち点：1点

エリアに置かれたカード

『シューティングスター』

『ギガクラッシュ』

スキル使用回数1回

かりんの山札：2枚

持ち点：5点

エリアに置かれたカード

『ウィルブレイク』

『レーザーフォース』

『シューティングスター』

スキル使用回数1回

『サード・レグ』

是政（こんな絶望的な状況をひっくり返すことなんてできるのか？）

グリーン「まだ勝負はついてない。最後までわからないぜ」

かりん「私の山札は2枚しかないから引き直しはできない。パワーで確実に勝てるカードを引き当てないとお兄さん負けるよ」

是政「あ、ああ（何だか調子狂うな）」

グリーン「兄ちゃんは引き直しできるから、落ち着いて考えれば大丈夫だぜ」

是政「俺の引いたカードは『レーザーフォース』。スキルを使いたいが、もしかりんの引いたカードが『ギガクラッシュ』だったら俺の負けだ。だが、ここで引き直したら次の『レグ』でパワーで劣る『ヘイルマリア』を引いてしまう。やっぱりここは——」

グリーン「兄ちゃん、全部聞こえてる……」

是政「やばっ、つい口が……?」

かりん「お兄さん、記憶力すごいね。ちゃんと考えてるみたいだし」
是政「まあゲーム自体は楽しくないけど、面白いとは感じてるのかもしれない」

グリーン「オレは兄ちゃんがずっと一緒にやってくれたら嬉しいぜ」
かりん「まだまだゲームは楽しくなるよ。私の引いたカードは『ヘイルマリア』。お兄さん、運がいいね」

グリーン「やったぜ!しかも『ヘイルマリア』は持ち点を減らせる『スキル』を持ってないからチャンスだ!」

是政「なら『レーザーフォース』の『スキル』を使う。俺の山札の一番上は——『ウイルブレイク』だ。『エリアスキル』は『ヘイルマリア』とは正反対。つまりかりんの持ち点を『2点』まで減らす!」
かりん「でも『ウイルブレイク』は山札から『エリア』に置かれたらまた山札に戻ってシャッフルしなきゃいけないんだよ」

是政の山札

『ヘイルマリア』

『ウイルブレイク』

持ち点：1点

エリアに置かれたカード

『シューティングスター』

『ギガクラッシュ』

『レーザーフォース』

スキルの使用回数2回

かりんの山札

『ギガクラッシュ』

持ち点：2点

エリアに置かれたカード

『ウイルブレイク』

『レーザーフォース』

『シューティングスター』

『ヘイルマリア』

スキルの使用回数2回

是政「なあ、ずっと気になってたんだが——」

かりん「あくあ、どうしても気が散っちゃうなあ……」

グリーン「どうしたんだよ急に」

是政『シューティングスター』のイラストに描かれてる女の子って

少しかりんに似てる気がしないか？」

グリーン「言われてみたら……」

かりん「わかるの？」

是政「なんだか寂しそうに見えたからさ」

グリーン「なんだよっ！オレにわかるように説明してくれよな！」

かりん「私ね、この絵を見てると思い出すんだ……パパと流れ星を

見た日のこと……一緒にいた時間が少なかったから……」

グリーン「かりんのお父さんって——」

是政「似てるのかもしれないな、イラストに描かれてる親子に」

かりん「でも寂しくなんかないよ。学校に友達も先生もいるから。

それにグリーンもね」

グリーン「オレはおまけかよ」

是政「とはいえ勝負は俺の負けだな。この点差をひっくり返すカー

ドはないし」

かりん「降参するの？」

グリーン「あれ？兄ちゃんの山札、まだ2枚残ってるぜ」

是政「もし『ヘイルマリア』だったら、かりんの最後のカード『ギ

ガクラツシュ』には敵わないから俺の負けだ」

かりん「ふふふ」

是政「やっぱり難しいな、このゲーム。でも面白かったよ、やりご

たえあつてさ。約束通りグリーンとはもう関わらない」

グリーン「ちよ、ちよつと嘘だろツ!?せつかく仲間ができたと思った

のに。かりんも冗談だったって言うてくれよ!!」

かりん「冗談もなにもお兄さんが『ウィルブレイク』を引いたら私

の負けだよ」

是政「えっ……?」

グリーン「うくん、なんでだ?」

かりん「最初に始めたグリーンがルールを知らないなんて恥ずかしくないの?」

是政「もし俺が『ウィルブレイク』を引いてもかりんの持ち点は『1点』残るはず……」

グリーン「あっ!?!かりんの山札から引けるカードがない!」

是政「なるほど。山札が引けなくなったら負けなのか」

かりん「もう勝ち負けなんてどうでもよくなっちゃった。でも楽しかったよ、お兄さんだったらまた遊び相手になってあげる」

グリーン「それじゃあこれからも是政兄ちゃんとゲームできるんだあーッ!良かったあーッ!」

是政(たった5枚カードがこんなにも奥の深いゲームだったとは。まだまだ俺の知らないことがありそうだ。まあ、高校生活の暇潰し程度にはなるかな)

かりん「ねえ、人の話聞いてる?」

是政「あつ、ゴメンゴメン。俺で良ければかりんの寂しさを紛らわせることぐらいできるから、これからもよろしく頼むよ」

グリーン「兄ちゃん……」

かりん「なんか勘違いしてない?私のパパ、海外に住んでるんだよ?まだ流れ星になってないから」

是政「ま、まさかそんなつもりで言ったワケじゃ——」

グリーン「やれやれ、ゲームを理解できても女心が理解できなきゃ男とは言えないぜ」

かりん「グリーンにはもっと理解できなきゃいけないことがあるだろおー!」

ファースト・レグ・キル

くおもちゃ屋『木人』く

是政「俺の貴重な休みがカードゲームごときに使われるなんて最悪だ……」

かりん「グリーンが遊ぼうって誘ったのになんておもちゃ屋に来る必要があるの？」

グリーン「いやあ『ウィルブレイク』ってさ、ルールが複雑だから少し勉強したいなあって思ってたさ」

是政「学校で勉強しろ。かりんにも言われただろ」

かりん「それで詳しい人に聞こうと考えたの？」

グリーン「違う違う。本を買いにきたんだよ。ルールブックってやつ？」

是政「それなら普通本屋に行くもんだろ？こんな認知度の低そうなゲームの攻略本がおもちゃ屋に売ってるとは思えないぞ」

かりん「でもこのおもちゃ屋さんで結構マニアックなモノが売ってたりするって噂だよ」

グリーン「そうなんだよ！この木人（ぼくと）おじさんっていう人がスゲエコレクターなんだぜ！」

是政「俺とは無縁な気がするが……」

かりん「今さら引き返しても空き地ぐらいしか遊ぶ場所ないし」

グリーン「そうだけ、一回中に入って見るべきだって。『一見さんお断り』っていう言葉もあるしね」

是政「それを言うなら百聞は一見にしかずだろ。お断りしてどうする」

かりん「商売にならないよね」

木人「——やあ、いらっしやい」

グリーン「おじさん、こんにちは！」

木人「おおっ！また見ないうちに大きくなって」

グリーン「なに言ってんだよ！この前空き地で会ったばかりじゃん

！」

木人「ぐわっはっはあーっ！そうだったそうだった！」

是政「豪快なおっさんだな」

かりん「私、声おっきい人苦手」

木人「おや？そのお二人はグリンのお友達？」

グリン「へへっ！そうだぜ！」

木人「そうかそうか！遂にグリンにもグッドフレンドができたのか！くうーっ！」

是政「うるさい、帰るか」

かりん「うん」

グリン「まだ来たばっかだろ！オレたちが来た目的は本を探すため。『ウィルブレイク』の必勝法を知るまでは帰れないぜ」

木人「むむむ！『ウィルブレイク』の攻略本を求めて足を運んだと？それは聞き捨てならない。君たちはこの東雲（しののめ）木人にあるんだね？」

是政（しののめ？）

かりん「そうだけど、別に私が知りたいワケじゃないから」

グリン「是政兄ちゃんの後ろに隠れちゃったよ。おじさんのこと恐がつてるみたいだぜ」

木人「むむむ！アイムソーリー……」

是政「それで本当に攻略本なんてあるのか？」

木人「なんだね君！こんなへんぴな場所でおもちや屋をやるなんてクレイジーとでも言いたいのか！そんな顔してるぞ！」

かりん「うん」

木人「もう許さんぞ！君、私と勝負しろ！」

是政（なんで俺に対してこんなな怒ってるんだよ……）

グリン「ヤバイよ、兄ちゃん。おじさん怒らせるとメチャクチャ大変なんだ」

かりん「私のせい？どうしたらいいの？」

木人「勝てばいいんだ。『ウィルブレイク』を知り尽くした、この私にね」

是政「ゲームを知り尽くした人間なんかには勝てるかよ！」

木人「なに、勝てば君プレゼントしよう。攻略本は君のモノだ」

かりん「ごめんね、お兄さん」

是政「やっぱりこうなるのか……」

グリーン「なあなあ、おじさんの相手オレに任せてくれよ」

かりん「ルールを完璧に覚えたおじさんにグリーンが勝てるの？」

是政「何か勝算でもあるのか？」

木人「グリーンが相手でも手は抜くのは私のプライドが許さない。いざ尋常に——」

グリーン「えっへっへ、行くぜえーっ」

『ファースト・レグ』

木人「まずは小手調べだ。私の胸を借りるつもりでかかってきなさいー！」

グリーン「カードを引くぜ……へっ」

是政「今日がグリーンの日になればいいが」

かりん「もしかしたらグリーンは『あれ』を狙っているのかも」

是政「『あれ』？」

かりん「でも相手のプレイングに影響されやすいから私は好きじゃない」

是政「さて、どうなるか見てみるとするか」

木人「いいか？ 真のゲーマーはまず相手の出方を見ているのだ。いきなり手の内をさらすなんて弱点を突いてくれと言ってるようなものだろう？」

グリーン「うんうん、それで？」

木人「オッホン、私は初手で強力なカードは出さない主義なのだよ」

グリーン「引き直さなくていいのか？」

木人「君こそ引き直し方がいいんじゃないのか？ ディアグリーン」

グリーン「恨みっこはなしだからな。後悔させてやる」

木人「ふっふっふ、私の初弾は『シューティングスター』。さあ、君の手の内をさらけ出してみるがいい」

グリーン「えっへっへ」

かりん「グリーン、ふざけすぎ(また最初に『シューティングスター』出す人いた。でもこの人、私の好きなカードを適当に扱ったから嫌い)」

是政「あながちハツタリじゃないかもしれないぞ」

グリーン「オレはお気に入りで勝負——『レーザーフォース』」

木人「はっはっは、パワーで負けてしまったよ。だが、真の勝負はこれから」

グリーン『『シューティングスター』のスキルはこのタイミングじゃ使えないから、オレは『レーザーフォース』のスキルを使わせてもらおうぜ』

木人「ス、スキル？一体、何が起こっているのかな？」

是政「いや、カード読めよ。ちゃんと記されているだろう？」

かりん「おじさん、ふざけすぎ。パワーで負けて持ち点を『1点』減らされてるんだよ。それに『レーザーフォース』のスキルで更にもう『1点』。言ってる意味わかるでしょ？」

木人「そんなデタラメを言うもんじゃない！カードはカードだろう！」

是政「おっさん、まさかカードの中身を把握しないんじゃ……」

グリーン「まだまだオレの『レグ』は終わっちゃいない！山札から『エリア』にカードを置く！」

かりん「話にならないからさっさと終わらせちゃおうよ」

是政「グリーンが引いたカードは——」

グリーン「やったあーっ！『ギガクラッシュ』だーっ！」

かりん『『ギガクラッシュ』の『エリアスキル』は山札から『エリア』に置かれると、相手の持ち点を『1点』減らすんだよ』

是政「ということは全部で『3点』減らされてるから持ち点は……」

木人「ぜ、ぜ、ゼロオオオツ?!?!」

グリーン「これが『ファースト・レグ・キル』だぜ！」

是政「瞬殺か、『レーザーフォース』の強みを最大限生かした荒業だな。グリーンらしい」

かりん「でも教えたのは私なんだから感謝してよね」

木人「ぐぬううう……そんなあく大人をからかったりして君たちには罪悪感つてもものはないのか？」

是政「そんなこと言われてもな？」

かりん「カードを使いこなせなきゃルールを知ってたって意味ないし」

木人「だって今まで対人でプレイしたことなかったからね……カードの特徴までは掴み切れなかったんだよ……」

是政（何のためのルールブックなんだよ）

グリーン「おじさん……」

木人「私の崇高な志はいとも容易く砕かれてしまった、まさに『ウィルブレイク』

かりん「全然懲りてない。どうする、お兄さん？」

是政「約束は守ってもらう。出してもらおうか、『ウィルブレイク』のルールブックを」

木人「うー……うわあああーん！ジュリちゃん！不良少年たちがパパをいじめるよお〜！」

是政（ジュリ？ジュリってあの——）

絶対勝利の戦術

くおもちゃ屋『木人』く

ジュリ「どうしたの？バカみたいに大声なんか出して——あつ、あなたは……!?!」

是政（あれ？やっぱり人違いか？）

かりん「お兄さんの知り合い？」

グリーン「マジかよ!?!兄ちゃん、こんな綺麗なネエちゃんと知り合いなのか？」

是政「確かに俺の知ってる東雲樹李（しののめじゅり）はクラスメイトで学級委員長をしているが……」

かりん「お兄さんの学校って髪を染めてもいいんだ」

ジュリ「ダメに決まってるじゃない」

是政「どうしてダメなんだ？」

ジュリ「校則が厳しいからよ。あなただって知ってるはずよ」

是政（にわかに信じられん。本当にあの地味で目立たない東雲樹李なのか？）

グリーン「兄ちゃん、さつきからなんで黙ってるんだ？」

かりん「学校にいる時は染めてないってこと？ずっと続けるの大変じゃない？」

ジュリ「だってしようがないじゃない。ワタシ、高校に入る前まではイギリスに住んでたのよ。外国の習慣をこの町に持ち込んだら浮いちゃうじゃない」

是政「だからって黒髪に三つ編み眼鏡って今時いないぞ！」

かりん「逆に浮きそうだけどね」

グリーン「まさに優等生って感じ？」

ジュリ「そんな些細なことどうでもいいわ。それより是政君？」

是政「な、なんだよ（そんな風に呼ばれたことないから体がムズムズする）」

ジュリ「あなたが『ウィルブレイク』を始めてどのくらい経つのかしら？」

是政「二日前に始めたばかりだから——」

ジュリ「二日前!? ハッ、素人同然じゃない!」

かりん「ねえ——」

ジュリ「あなたじゃワタシの相手は務まらないわ」

かりん「ちよつとさつきから好き放題喋ってるけど、先輩はゲーム得意なの?」

グリーン（先輩? かりん、どうしたんだ?）

ジュリ『『ウィルブレイク』なら頭でつかちな父よりも上手く扱えるわよ』

木人「私の心が『ギガクラッシュ』……」

かりん「なら私と勝負しよ」

グリーン（かりん、怒ってんのか?）

ジュリ「あなたと? 腕は確かなのよね?」

是政「俺がゲームを教わるぐらいだから油断すると痛い目にあうかもな」

ジュリ「いいわ。それならワタシの絶対勝利の戦術——見せてあげる!」

『ファースト・レグ』

グリーン「ルールは持ち点3点。スキルの使用回数は2回まで。山札が3枚以上の時は各『レグ』につき1回まで引き直しできる。これでオーケー?」

ジュリ「フフツ」

かりん「うん」

ジュリ「私は引いたカードで勝負するわ」

かりん「なら私も」

是政「東雲さんが引いたのは——」

ジュリ「そんな呼び方しないでくれる? あなたはジュリって呼びなさい」

是政「は、はい（強制かよ……）」

グリーン「ネエちゃんか引いたのは『レーザーフォース』!」

是政「かりんが引いたのは——『レーザーフォース』!?!」

グリーン「パワーが同じ場合ってどうなるんだっけ？」

木人「オツホン、パワーが同じの時はスキルが使用できずカードは『エリア』に置かれるんだよ。もちろん持ち点は変動しないよ♪」

是政「ホント、ルールだけは熟知してるんだな」

木人「まあね〜ウォーキング百科事典って呼ばれることだけはあるだろう?」

是政（百科事典は英語にしないのかよ!）

かりん

持ち点：3点

山札：4枚

『エリア』に置かれたカード

『レーザーフォース』

スキル使用回数0回

ジュリ

持ち点：3点

山札：4枚

『エリア』に置かれたカード

『レーザーフォース』

スキル使用回数0回

『セカンド・レグ』

ジュリ「降参するならいつでも聞いてあげるわ」

かりん「バカなこと言ってるんで早く引いてよ」

グリーン（スゲエピリピリしてる。女同士のバトルってこええーっ!）

ジュリ「フツッ、ワタシは引き直すわ」

かりん「あっそ」

是政（ジュリの不敵な笑いは何を意味してるんだ? かりん、気をつける）

かりん「私が次出すのはこれ——『シューティングスター』」

グリーン「おおっ！かりんのお気に入りに入りじゃん！」

ジュリ「その程度のカード？ワタシは最強カード『ウィルブレイク』よ！」

是政「『セカンド・レグ』で『ウィルブレイク』を出すのか。だが、いくらパワーが強くても持ち点は『1点』しか減らせない」

かりん「それなら私は『シューティングスター』のスキルを使う。スキルは『エリア』から1枚だけカードを山札に戻せる」

グリーン「『エリア』には『レーザーフォース』しかないから当然そのカードを選ぶしかないぜ」

ジュリ「つまらないスキルね」

是政「そんなことはないな。かりんはちゃんと考えてるよ」

かりん「お兄さんならわかるよね？」

グリーン（うくん、どういうことだあ？）

名誉なき勝利

かりん

持ち点：2点

山札：4枚

『エリア』に置かれたカード

『シユーンティングスター』

スキル使用回数1回

ジュリ

持ち点：3点

山札：3枚

『エリア』に置かれたカード

『レーザーフォース』

『ウィルブレイク』

スキル使用回数0回

『ソード・レグ』

ジュリ（勝利の布石は既に打たれているのよ。フフツ、あの子にワタシの戦術が見破れるかしら？）

グリーン（なあ、兄ちゃん？）

是政（ん？）

グリーン（かりんはどういう戦い方をしようとしてるんだ？）

是政（かりんはパワーの低い『シユーンティングスター』を利用して

『レーザーフォース』を回収したろ？）

グリーン（したした）

是政（だとするとかりんの山札にある、パワーが『シユーンティングスター』より低いカードは？）

グリーン（えくと、『ヘイルマリア』……だけだ！）

是政（そうだ。でも『ヘイルマリア』を引いたとしても引き直しを行えば『レーザーフォース』『ギガクラツシュ』『ウィルブレイク』の内、どれかは必ず引けるといってワケだ）

グリーン（そっか！かりんは強力なカードを引ける確率を高める戦い

方でネエちゃんに挑もうとしてるんだ！」

かりん「私は引いたカードで勝負する。先輩は？」

ジュリ「私もこのまま勝負するわ」

かりん「私のカードは『ウィルブレイク』」

ジュリ「やるわね。ワタシのカードは『シューティングスター』よ」

グリーン「やったぜ！パワーでかりんが勝った！」

是政（おかしい、なぜジュリは引き直さなかったんだ？）

かりん「『シューティングスター』のスキルは使わないの？」

ジュリ「使わないわ。ワタシには必要ないもの」

かりん「なんなの一体……」

ジュリ「フフツ」

かりん「なんでネエちゃんは『シューティングスター』のスキルを使わなかったんだ？」

是政（引き直しもしなければスキルも使わない。もしかしてジュリの狙いは……!?!）

ジュリ「あなた意外にやるじゃない」

かりん「強がってられるのも今だけ。次で終わらせるから」

ジュリ「やれるものならやってみなさい」

かりん

持ち点：2点

山札：3枚

『エリア』に置かれたカード

『シューティングスター』

『ウィルブレイク』

スキル使用回数1回

ジュリ

持ち点：2点

山札

『ヘイルマリア』

『ギガクラッシュ』

『エリア』に置かれたカード

『レーザーフォース』

『ウィルブレイク』

『シューティングスター』

スキル使用回数0回

『ファイナル・レグ』

ジュリ「ワタシの山札は2枚しかないの。だから引き直しはできない」

かりん「いちいち説明しなくていいよ」

グリーン（かりんは何を引いたんだ？）

かりん（私の引いたカードは『レーザーフォース』。もし先輩が『ギガクラッシュ』を引いてもスキルの優先権は私にある。それに——）
是政（『レーザーフォース』のスキルで、かりんの山札から『ギガクラッシュ』を『エリア』に置ければジュリの持ち点を0にできる。だが、もし『ヘイルマリア』を引いたら——）

ジュリ「フッフ」

かりん「私は『レーザーフォース』。先輩は？」

ジュリ「ワタシの最後のカードは『ギガクラッシュ』よ。あなたの持ち点が『1点』減っちゃったわ」

かりん「私は最後のスキルを使う」

ジュリ「それでも私の持ち点はあと『1点』よ」

かりん「まだ私の『レグ』は終わってないんだから！山札から1枚『エリア』に置く——」

グリーン（ゴクリ……）

是政「置いたカードは……!?!」

かりん「『ヘイルマリア』……」

ジュリ「フッフ、フッフッフ」

グリーン「でもこれでかりんの持ち点『2点』に戻る」

ジュリ「残念ね。こんな形で終わりを迎えちゃうなんて」

木人「まだジュリちゃんの山札は1枚残ってるけど、どうして終わりなんだい？」

是政「その最後の1枚が『ヘイルマリア』だからだろ？」
かりん「!?!」

グリーン「ホ、ホントだ！ネエちゃんの『エリア』には『ウィルブレイク』『ギガクラッシュ』『レーザーフォース』『シューティングスター』が揃ってるぜっ！」

ジュリ「そういうこと、『ヘイルマリア』のスキルは山札の最後の1枚がこのカードの場合、持ち点が1点以上あれば『ファイナル・レグ』終了時にプレイヤーは勝利するのよ。その名も『名誉なき勝利』」

木人「本で読んだ気がするよ。特殊な勝ち方ができるカードがある。確か『インゲロリアス名誉なき勝利』と呼ばれていると記されていたような——」
かりん「わ、私が……負けたの？」

是政「かりん……」
木人「なんだかよくわからないが父の仇をとってくれたんだ。さすがは我が自慢の娘だッ！」

グリーン「でも珍しいよ。かりんが『ヘイルマリア』のスキルを見落とすなんてさ」

かりん「私にもわからない。けどお兄さんがバカにされたのが悔しくて……」

是政「そうだったのか」

ジュリ「いくら引きが良くてもカードを扱う人間の能力が低いところな結末になっちゃうの」

グリーン「なんだと——兄ちゃん？」

是政「おい」

ジュリ「な、なによ（雰囲気が変わった？）」

是政「今度は俺と勝負しろ、東雲樹李」

ジュリ「いいわ、すぐに始めましょ。勝利の女神はいつだってワタシに微笑むのよ」

『ヘイルマリア』の弱点

くおもちゃ屋『木人』く

『ファースト・レグ』

是政「一つ聞いていいか？」

ジュリ「なによ」

是政「俺が勝つたらかりんに謝ってもらおう」

ジュリ「少し熱くなりすぎじゃないかしら？まあいいわ、ワタシが勝つたら卒業するまであなたには私の奴隷になってもらうから」

是政「構わない」

グリーン「そんな約束して大丈夫なのか？」

かりん（お兄さん、私のために……）

是政「俺は引き直す」

ジュリ「ワタシはこのままでいいわ」

是政「それならこのカードを出す」

ジュリ「ワタシはこれよ、『ギガクラッシュ』。あなたは——『ヘイルマリア』!？」

グリーン「ちよ、兄ちゃん……!？」

ジュリ「笑わせないで。引き直した挙げ句、その程度なんてセンスないんじゃないかしら？」

是政「スキルは使わないのか？」

ジュリ「初心者相手に本気になるのも気の毒だから使わないでおいであげるわ」

是政「そうか。次の『レグ』に移る」

ジュリ（この男、一体何を考えてるのかしら？）

是政

持ち点：2点

山札：4枚

『エリア』に置かれたカード

『ヘイルマリア』

スキルの使用回数0回

ジュリ

持ち点：3点

山札：4枚

『エリア』に置かれたカード

『ギガクラッシュ』

スキルの使用回数0回

『セカンド・レグ』

是政「今日は引きが悪いな。また引き直しだ」

ジュリ「フフツ、ワタシは相手が苦しむ顔を見るのが好きなの。だから引き直すわ」

グリーン「どういう意味？」

かりん「私に聞かないでよ」

是政「俺のカードは『シューティングスター』」

ジュリ「あなた、やる気ある？引き直して『レーザーフォース』にも勝てないなんてお話にならないわ！」

是政「そうかもな——」

かりん（お兄さんが『シューティングスター』に謝ってる？）

グリーン「兄ちゃん、何してんだ？」

かりん（私にはわかる。お兄さんは私の大好きな『シューティングスター』を使って慰めてくれたんだね）

是政「俺の持ち点はあと『1点』、か」

ジュリ「あなたさつきから何を考えてるのよ！プレイングがメチャクチャじゃないッ!!」

是政「やっぱりそうなんだな？」

ジュリ「な、何が『やっぱり』なのかしら？ワタシにはさっぱりだわ」

是政「今引き直したのは『ヘイルマリア』。そうだろ？」

ジュリ「だ、だったらどうだっていうのよ」

是政「わかったぞ。絶対勝利の女神を打ち破る方法が」

かりん『『ヘイルマリア』のスキルを使わずに勝てる方法があるの？』

是政『『ヘイルマリア』には弱点が二つある』

グリーン「二つもかよっ!？」

かりん「二つだけなら私にもわかるよ。でも負けちゃったけど」

ジュリ「弱点がわかったところであなたの持ち点はあと『1点』。風前の灯火よ」

是政「だがスキルは使わないんだろ? いや使えないんだ。東雲樹李、あんたは『ヘイルマリア』での勝利にこだわっているからさ」
グリーン「使えない? 『レーザーフォース』のスキルを使われたら兄ちゃんの負けだ——」

かりん「使えるワケないじゃん。『レーザーフォース』で持ち点を0にできないってちゃんと書いてあるんだから」

グリーン「だ、だよな? オレもそうだと思ってたんだぜ!」

ジュリ「そんなにかりんとかいう女の子と同じ轍を踏みたいのなら、お望み通りにしてあげるわ」

是政(ギリギリ踏み止まった……打てる手はだいたい打った。あとは『ヘイルマリア』を封じるキーカードを引くことだ。もしそれでもダメなら『奥の手』を使うしかない)

ウィルブレイカー

くおもちや屋『木人』く

是政

持ち点：1点

山札：3枚

『エリア』に置かれたカード

『ヘイルマリア』

『シユーンティングスター』

スキル使用回数0回

ジユリ

持ち点：3点

山札：3枚

『エリア』に置かれたカード

『ギガクラツシュ』

『レーザーフォース』

スキル使用回数0回

『サード・レグ』

ジユリ「あなたに残された『レグ』は2回つてどこかしら？それまでせいぜい足掻いてなさい」

グリーン「兄ちゃんならなんとかしてくれる！オレは最後の最後まで兄ちゃんを信じるぜッ！」

かりん（でも『ヘイルマリア』のもう一つ弱点を突かなきゃ、お兄さんが負けちゃう）

是政（あのカードを引けなければ、この『レグ』で勝負が決まってしまう。この3枚の山札から引くことができるのか？）

ジユリ「フフッ」

是政（まず引いてから考えよう——こいつ！）

ジユリ「三度目正直よ。真面目にやりなさい」

是政（くっ……『レーザーフォース』。違う、これじゃない）

ジュリ「いい加減にして。付き合ってられないわ」

グリーン「頼むよ、兄ちゃん……」

かりん（お願いします、勝負の女神様。お兄さんに力を——）

是政『『ヘイルマリア』を破るキーワード——こいつー！』

ジュリ（無理よ、私が生み出した絶対勝利の戦術を破るなんて誰にも——）

是政「きたッ!!」

ジュリ「えっ……」

是政「俺はこの瞬間を待ってたんだ」

グリーン「強がりじゃないんだよね？」

ジュリ「私のカードは『シューティングスター』。平凡なカードだけ
ど今さら何を引いても結果は同じよ」

是政「そうならないのがこのゲームの面白さなんだ。なぜなら俺が
待っていたのはこのカードだからさ——」

グリーン「『ギガクラッシュ』？」

かりん『『ギガクラッシュ』は宣言したカードをエリアに置けるカー
ドだけど……ああーっ!』

ジュリ「パワーは高い。でもそんなスキルじゃ力不足ね」

是政「ちゃんとスキルを読みこんだのか？しっかりと書いてあるだ
ろ？『ヘイルマリア』の弱点がさ」

グリーン「えくと、相手の山札の中からカード名を宣言する。カード
が存在する場合、相手の『エリア』に置く。その後シャッフルする」

ジュリ「?!?!」

木人「水を差すようで悪いんだけど、おじさんにわかるように教え
てくれる？」

かりん『『ヘイルマリア』を最後に引かれたら負けるんだよ？なら順
番を変えちゃえばいいってことだよね』

グリーン「シャッフルさせること自体が『ヘイルマリア』の弱点なん
だ……よな？」

是政「ああ、迂闊だったな。スキルを使わない選択があんたの首を
絞めたんだ」

ジュリ「ま、まだよ、まだ終わってないわ！」

是政「『ギガクラッシュ』のスキルで『ヘイルマリア』を宣言する。そして山札に戻してシャッフルしてもらおうか」

グリーン「『ヘイルマリア』の『エリアスキル』でネエちゃんの持ち点は『3点』のままだ」

かりん「それに『ヘイルマリア』は山札に戻る」

ジュリ「シャッフルすればいいんでしょ！」

是政「シャッフルはかりんにしてもらおう。あんたは信用できないからな」

ジュリ「うっ……」

グリーン（ネエちゃん、かわいそう）

是政

持ち点：1点

山札

『レーザーフォース』

『ウィルブレイク』

『エリア』に置かれたカード

『ヘイルマリア』

『シューティングスター』

『ギガクラッシュ』

スキル使用回数1回

ジュリ

持ち点：3点

山札

『ヘイルマリア』

『ウィルブレイク』

『エリア』に置かれたカード

『ギガクラッシュ』

『レーザーフォース』

『シューティングスター』

スキル使用回数0回

『ファイナル・レグ』

ジュリ「……」

是政「さっきまでの威勢の良さはどこ行つた？ 本当の勝負はこれからだ」

グリーン「でもたった2枚で持ち点を0にすることってできんのか？ 引き直しもできねえのに」

かりん「ホント、グリーンって鈍感だよね（一番お兄さんにヒントを与えてるのはグリーンなのに）」

ジュリ「アナタは全てを論理的に思考しているのね。なら教えなさい、たった2枚で混沌としたこの状況がどのように展開していくかを」

是政「あんたの頭の中も相当混沌としているようだな」

ジュリ「なんですって……!?!」

是政「いいか。俺に取れる手段は一つしかないんだ、それがわからなければあんたに勝ち目はない」

ジュリ「くどいのよ！ もしワタシが『ウィルブレイク』を引けばあなたは負け！」

是政「俺が『ウィルブレイク』を引いても負けだな」

かりん「先輩の最後のカードが『ヘイルマリア』になるからだよね」

グリーン「じゃあ、兄ちゃんが『レーザーフォース』を引いたら？」

是政「『ヘイルマリア』を出させれば俺の勝ちだ」

木人「どうしてなんだい？ おじさんにも教えてくれ」

グリーン「おじさんが一番良くわかつてるじゃねえか！」

かりん「『ファースト・レグ・キル』だよ」

木人「あ、ああ。そんなこともあったね……」

是政「『レーザーフォース』のスキルと『ウィルブレイク』のエリアスキルで持ち点は0になる」

ジュリ「う、うそよ……」

是政「俺は『レーザーフォース』を引き当てる、絶対にな」

ジュリ「!!」

グリーン「なんか体が熱くなってきたッ！」

かりん「先輩は『ウィルブレイク』を引けば勝ちなんだよ。なんでそんなに震えてるの？」

ジュリ「えっ!？」

是政「躊躇いは命取り、意志の弱き者は挫かれる」

ジュリ（ワタシが……ワタシが……負ける？）

木人「ジュリちゃん……」

是政「自分に嘘をつくのは疲れんだろ？肩の力抜けよ」

ジュリ「アナタに何がわかるっていうのよ」

是政「学校で自分を偽って生活してきたんだろ？俺の想像もできないような辛さを背負ってクラスに馴染もうとしてたんだよな」

ジュリ「うっ……なによ……アナタなんかワタシの気持ちなんて……」

グリーン「オレにはわかる。『ウィルブレイク』を楽しさをクラスのみんなに理解してもらえなく独りぼっちだったんだ」

かりん「仕方ないから私が相手してあげたんだよ」

ジュリ「アナタたちと一緒にしないで……」

是政「まだ続けるか？」

ジュリ「……」

木人「ジュリちゃんの悩みに気づけなかった父を許しておくれ、ごめんよ」

ジュリ「ワタシ、決めたわ」

グリーン「おっ、まだゲームを続けるんだな？」

ジュリ「今日からは是政君の弟子になるわッ！」

是政「……なんでそうなるんだ??？」

かりん（二日前に始めた人の弟子になるなんて恥ずかしくないのかな?）

グリーン「ゲームは終わってねえけど——」

ジュリ「そんなことどうでもいいのよ！明日からみっちりワタシの相手をしてもらうからよろしくね、是政君」

グリーン「それなら兄ちゃんはオレの弟子だな、ギャハハ！」

是政「攻略本はどうなるんだ？」

ジュリ「あんな埃くさい本ならタダであげるわよ」

木人「ジュリちゃんが言うなら仕方ないか。大事な家宝だから大切に扱ってくれよ」

是政「——ぶあつツ!？」

グリーン「スゲエ重そうな本だけど……」

かりん「この本、八百ページもあるよ」

木人「まあでも六百ページぐらいはイラストで解説してるから」

是政（もはやイラスト集……）

グリーン「オレ宿題やるの忘れてた。みんな、またな」

かりん「私もお母さんの手伝いしなきゃ」

是政「お、おい……行っちまった」

ジュリ「その本、毎日持ち歩くのよ」

是政「持ち歩くとか罰ゲームかよ……トホホ」

木人（足立是政君か、なかなか面白い存在だ——ん？）

木人（そういえば最後に引いたカードは……むむむ!?)

木人（これは『ウィルブレイク』じゃないか!?ジュリちゃんはしてやられたのか。意志の弱き者は挫かれる。彼はもしかしたら『ウィルブレイカー』としての力を秘めているのかしれない。友人に連絡しておくか）